

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふぁみりえ独自につくりあげた「入居者とその家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続を支援させて頂く」という理念の下にケアを行っている。地域の方々にもふぁみりえの事をよりよく知ってもらえるように情報発信をし、地域の方や小中学校と交流を通し、地域で高齢者の生活を支える街づくりに貢献していくよう理念として掲げている。		理念と実践が結びつくよう、引き続き日常の支援の場面で捉えて振り返りを行う。新人職員へは研修日誌や毎日のミーティングを通してじっくりと行いたい
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やオリエンテーション、勉強会などを利用してホーム長や主任が主体となり、ふぁみりえの理念や方針について話し合う場を持っている。また日々のケアの場面場面や行事、その他いろいろな取り組みの中でその都度、職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。		特に新入職員を主とし、理念や方針についての意義付け、またその共有が必要である。職員は日々のケアの中で理念を実践し、話し合い、より良いケアを提供できるように取り組むことで、新入職員とともにそれらを再認識していく。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族向け通信や地域向け通信の発行を定期的に行い、ふぁみりえの日々の取り組みや認知症について情報を発信している。また、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に1回の運営推進会議、また、きてみてテラス、はやめ南人情ネットワークへの参加、小中学校との交流等、地域との関わりの中で家族や地域の方にふぁみりえの理念、方針を伝えている。		ふぁみりえと入居者のご家族や地域との交流(年末の餅つき・ささやかカレーの店・防災訓練・赤ちゃんママさん会・その他地域の行事など)を通して、今後も理念の浸透に努めていく。
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設に併設したホームである為、隣近所とはあいさつ程度であるが、同じ地域との付き合いはふぁみりえの行事に声掛けして来て頂いたり、地域の行事に参加したりして、日常的に気軽に立ち寄っていただけるよう努めている。		地域の特定の方々との付き合いは日常的になり、その人数は増加しているが、今まで以上に地域の行事などに足を運び、地域の方にふぁみりえの事を理解して頂けるよう、いろんな方と日常的な付き合いができるようにしていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の状況に応じて地域のお祭りやイベント、また公園清掃などに出来る限り足を運び、地域の方と交流を行っている。また、地域の小・中学校とも交流を図っており、双方の行事などに招待したりしている。		今後は更に地域との繋がりが日常的になるように支援していきたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	はやめ南人情ネットワークの事務局として地域の一員として入り、地域の高齢者の誰もが安心して暮らせるまち作りが出来るよう、情報交換や、地域向け通信などで情報発信を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を共有し、自己評価表をもとに職員全員で点検を行い、日々のケアの点検をする良い機会にしている。改善すべき点、前年度に外部評価で見出された課題は、リーダー会議・ふぁみりえ会議・ユニット会議などで改善策を話し合い、具体的な改善に努めている。		スタッフ個々の自己点検により改善が必要な課題に、共通認識を持ちスタッフ一丸となって改善に向けて努力しているが、十分に改善されていないところもある。スタッフ同士でもっと話し合う機会を増やし、実行に移していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。その際にはふぁみりえの取り組みや、今後の計画を報告し、いろいろな意見やアドバイスを出して頂き、それらを真摯に受けとめ、サービス向上に努めている。運営推進委員会は、運営推進委員と入居者や家族が交流や意見・希望が出し合える場にもなっている。		各々のユニットスタッフが交代で出席できるような、当日の職員体制の整備が必要だと思われる。また、毎回、運営推進会議へふぁみりえの入居者も参加して頂いているが、より多くの入居者が参加し意見、交流ができるように努力していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所からの研修やあんしん介護相談員に来て頂く事などをして、意見を頂いている。市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。また市からの視察研修の受け入れや行事などへの参加も積極的に呼びかけ日常的に情報共有を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、専門知識を有する地域包括支援センター職員を招き、入居者の必要に応じて不安無く活用できるよう支援している。また、職員一人ひとりの知識を深めるためにも、勉強会を開催して学んでいる。		新入職員はもとより、中堅～の職員も勉強会の機会・理解共に不足していると思われる。今後活用のサポートが出来るよう、家族会などでも勉強会をもつなど進めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体であるサンフレンズ全体として、虐待防止のための組織を作っている。また、自主勉強会や、グループホーム協議会での勉強会にも参加し、各職員も何が虐待に当たるかを勉強し、虐待防止に努めている。		スタッフ間で、些細な事でもおかしいと気付いたら皆で話し合いをもち、入居者に対しての言動や行動について虐待の可能性はないか日々注意をしていきたい。また、もっと意識を高めていく機会、勉強会を増やす必要がある。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居の契約に際してはホーム長、管理者、ユニット担当者が一緒に本人や家族に十分に時間を作り説明し、理解、納得、同意を図っている。利用者や家族等の不安や疑問のを解消するためにも、入居されたその後も随時、補足、説明、相談に応じている。理念や方針については具体例を挙げて説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	あんしん介護相談員の定期的な来家し、入居者が直接、意見を言えるような機会を設けている。また地域の行事や運営推進会議など、地域住民との交流の場を通して本人や家族が外部者に表せる機会を設けている。日々の暮らしの中で出た不満などは管理者に報告し、それらをケアに反映している。		センター方式シートを使用するなどして利用者の意向や不満などを引き出し、反映できるように取り組んでいきたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者のご家族が来家された際には、入居者の近況報告、預かり金の確認等を担当職員を中心に行っている。入居者の急変時や遠方に住んでいる家族には電話をしたり、手紙や写真を送って定期的に報告を行っている。また、家族会の時にも報告したり、家族向け通信を発行して現状や課題などを報告している。		ご家族の中には長年の関わりもあり、伝えているつもり、分かって頂いているつもりになっている方がいないかを考慮し、もう一度家族会でじっくり対話をしたり、来家時のフォローをしていきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	3ヶ月に1度、家族会を行い、ご家族からの意見をいただく場を設けている。その際意見が出た場合は真摯に受け止め対応を行っている。確実に職員にも伝わるように日々記録に分かりやすく記載できるように工夫している。玄関口に「ちょっと一言メモ」を置き、BOXを設置している。		家族は不満や苦情は出しにくいと思われるため、個別にこちらから時間を作り、意見を頂くなどのフォローしていきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ふぁみりえ会議・リーダー会議・ユニット会議等で意見交換や提案する場を設けている。特にリーダー会議のさまざまな意見を直接運営につなげている。会議の場でもホーム長へ意見や提案を述べたり、少しの時間を見つけてはできるだけコミュニケーションを図り、すぐに実行できる意見提案などは、すぐに取り入れている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	認知症の進行によって変化していく入居者の生活スタイルに合わせて出勤時間の調整を行ったり、入居者や家族の要望があれば、職員の人数を考慮している。また、行事参加など事前に日程が決まっていれば、スタッフ数を調整し、入居者が行事に参加できるよう取り組んでいる。		急な行事において出勤できる職員の確保や、スタッフの人数だけでなく、質的ことも含めて施設として積極的に取り組む必要がある。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	人材のバランスや職員動態、ストレスケア等を考えて異動を行ってはいるが、最小限にとどめているつもりでも、開設当初から比べると異動は多くなっている。入居者と馴染みの深い職員の異動によるダメージを最小限に出来るよう、日頃よりユニットを超えて交流を図っている		職員の確保は年々難しく、また異動の必要性も増えてきている。しかしながら入居者や家族への対応をよりきめ細やかにしていきたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	人権の尊重、平等性・公平性を重視しながら採用を行うよう配慮している。スタッフの個性の発揮や社会参加や自己実現を図れるような機会作りにも重視している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	特に力を入れている。職員全体研修会で常に東翔会の基本理念である人権の尊重やノーマリゼーションの思想の理解啓発を図ったり、デンマーク研修やさまざまな研修を積極的に職員へ働きかけている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、現任研修、東翔会リーダー研修等、計画的に目標を設定し進めている。また県が進めている実践者研修の受講、グループホーム協議会の研修、学会や実践報告会などの積極的な発表など、施設外研修にも積極的に参加を促している。年に1回のデンマーク研修派遣は中でも特徴的なものである。さらに介護福祉士や介護支援専門員の資格取得についても対策研修をするなどして機会を設けている。		意欲的に取り組んではいるが、今後は年間計画におとしてより計画的に進めていきたい
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や認知症ケア研究会主催の研修や勉強会、大牟田市サービス事業所実践報告会、大牟田市認知症ケアコーディネーター養成講座等に参加することにより意見交換する場や学ぶ機会を作っており、互いに気付きあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新人教育のほか、研修日誌を通して職員の気付きや悩み、不安などを察知し、コミュニケーションを図っている。ストレスがたまりがちなケアの現場で、出来ないことを出来ないまままで終わらせず、常にどうすれば解決できるのか話し合う場を持って取り組んでいる。時に場所を変えて職員間の親睦を図る機会を作ったり、食事や遊びを通して気軽に話せる相手が出来るといったチーム作りを心掛けている。また管理者やリーダーと情報交換を密にし、不安を抱えている職員の変化を見逃さないように努めている。		専門分野の講師を招いて職員のストレスケアに関する研修の機会をつくりたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1～2回自己点検表をつけてもらい管理者や職員の職務実績や実践課題等の把握に努めている。勉強会や施設内の委員会や実行委員への推薦、資格取得、学会での事例発表等、さまざまな機会をとらえて向上心が持てるような職場環境、研修の場を提供している。		職員の向上心の源はさまざまであると思うが、根本は、理念の具現化、実践、チームケアによる「心ふるわず成功体験」や「入居者からの人生の学びを共有できること」ではないかと思う。煩雑なまた決して給与面で十分な評価ではない中で、個々の職員のやりがい感、ケアへの姿勢を育てていけるよう、また向上心を持った職員が多様な研修に参加
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	他入居者や職員とのなじみの関係作りのために体験利用や通い、ショートステイを通して、利用者本人との時間をつくり、本人の気持ちや不安、意向などを引き出し、向き合えるようにしている。また、生活史質問リストなどを活用し、出来るだけ本人理解のための情報収集を行っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談の段階でご家族と話し合う機会を多く持ち、認知症について理解して頂いたり、家族の気持ちや不安、意向を十分に聴くようにしている。また家族や利用者本人宅への訪問も行っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当のSWとホーム長、管理者、ユニット担当者が充分に本人や家族の必要としている支援を見極めるための話し合いを行い、利用者本人と家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のご家族と話し合い、体験利用やデイサービスから始めて、徐々に泊まりの利用などを組み合わせている。他入居者や職員となじみの関係をつくり、ふぁみりえがなじみの場所となるように対応しながら、入居までに利用者本人が安心して入居できるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中や入居者のアクティビティの場面で、入居者が達成感を持ち、感情を表現できるような場の提供や声掛けを行い、入居者の方から学んだ事や手伝っていただいた事等には感謝の言葉を伝え、それらを形として残していけるように工夫をしている。		入居者が持つ残存能力を十分に発揮できるよう日々心掛け、支援していく。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には近況を定期的に報告し、ご家族が持っておられる入居者への思いを大切にしている。入居者の日々の暮らしの支援についてケアプラン作成の意見を頂戴したり、旅行を計画したりなど家族と職員が一緒になって本人を支えていくよう努めている。		入居者への思いは職員やホームに気遣われてからか、心に秘めておられることも多い。家族と気兼ねなく意見交換を行えるよう、これまで以上にご家族との関係を深めていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	近況報告を家族に定期的に伝えたり、外食や旅行など家族の協力が必要不可欠な部分は、家族の負担を考慮しながら協力を仰いでいる。家族会や行事の機会には家族との良い時間を持てるよう配慮している。		認知症の進行や日々の変化をとらえ、どのような時期であっても、本人と家族の絆が深まるような支援の場をつくっていきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折自宅へ3時間ほど帰宅する支援を行ったり、昔馴染みの隣人、友人、知人の来家などでこれまで大切にしてきた人々との交流を維持できるよう心掛け、支援している。		少しずつ以前のなじみが薄れていかないよう、なじみの方に時折連絡を行ったり行事の招待状を送ったりなどをして支援していきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共用空間の使い方を配慮しながら入居者同士の関係を把握し、状況に合わせて、食卓テーブルの座る位置や団欒時など、入居者同士が楽しく過ごせる関係を支援している。		認知症の進行により入居者間でのトラブル、事故を防ぐためにも、少しずつ職員が間に入る事が多くなったが、入居者間の仲を維持できるよう心掛け、話し合っていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で退去された入居者や家族にも家族会やその他ふぁみりえの行事の際には声をかけ来ていただいたりして、関係を保っている。亡くなられた入居者の法事を行うなどをして、そのご家族に案内を出したりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族より情報を得たり、利用者の普段の会話から希望や意向を汲み取り、入居者本人が思っていることを主体としたケアプランを作成し、入居者一人ひとりの思いを大事にしている。		センター方式C-1-2等を活用し、本人の気持ちを再確認し、支援していきたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から本人の生活の様子を伺ったり、ご家族に人生史や生活習慣等の情報をシートに記入して頂き、ファイルにまとめている。また入居後も本人からも普段の会話の中からどのような暮らし方をしていたか等を聞き出し、追記する事で把握に努めている。		ファイルにまとめた後にも情報収集を欠かさずに行い、今後のケアに活かす事が出来る様にしていきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	専門医や看護師の助言を基に日々記録や24時間アセスメントシートなどを活用し、入居者の現状を把握、また定期的に更新をしている。アクティビティ等を通して、出来る事、出来なくなっている事を探り支援している。		定期的に個々の入居者の基本ケアの見直しを図り、その人ならではの一日の過ごし方を皆で話し合い、考えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との日々の会話の中や、家族会、運営推進会議等で入居者や家族と一緒に話し合う機会を持ったり、主治医や専門ドクターの意見も参考にし、ケアカンファを行い、本人主体のケアプランを作成している。		入居者もケアカンファに参加していただけるような状況を作っていく。独自のケアプランシートに留まらず、センター方式の活用・理解を進め、より入居者本位の介護計画の作成に取り組んでいきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と相談しながら、3ヶ月に1回介護計画の見直し、評価を行っている。また3ヶ月以内に本人の状態が著しく変化した場合、その都度ケアカンファレンスを行い、プランの見直しを行っている。		ケアカンファを出来るだけ多く持てるように努め、ケアプランの作成が遅れる事の無い様にしていく。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録にケアプランと付随しながら記録をし、気づいたことや実践結果を残す事で職員間の情報共有を行っている。日々記録には今後の課題や工夫などを残し、ケアプラン見直しの際に活かしている。		ケアプランの実践結果の記録が少ないので、職員一人ひとりが気掛けて実践記録を残し、日々記録がケアに活かせるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年度から共用型デイサービスを通して、体験利用や入居前のなじみづくりなどに活用している。		H21年度より隣接された認知症対応デイ“こころね”が開設される事もあり、相互交流を図っていきたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校や中学校の職場体験の受入れや学習発表会、運動会、ふぁみりえなどでこちらから学校に足を運んだり行事に招待したりなどの交流を通して普段から連携を取っている。本人の楽しみや趣味の継続にもボランティアの力を借りている。また、防災訓練では、消防や運営推進委員、地域の方の協力を得て行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況・状態に応じて訪問看護、ドクターとの連携を計っている。また、サービス移行の際には、移行先事業者と十分話し合いを行い、スムーズにご本人の生活が継続できるような支援を行っている。		地域交流センターきてみてテラスや、小規模多機能ホームみえあむ、また認知症対応型通介護こころねが近くに事業開始されるので、介護保険内サービスに止まらず広く地域資源を活用した支援を行っていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度などを活用される際には地域包括支援センターと連携し支援にあたっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人のなじみのかかりつけ医を最優先し、状況に応じて変更を行っている。入居時にかかりつけ医や緊急時の希望を事前に確認し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の意向や状況に応じて職員やナース対応での受診や往診などの支援を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科や神経内科の専門医が定期的に往診に見え、その際にケアに対するアドバイスを頂いたりなど協力関係が築けている。また必要に応じて受診をしたり、カンファレンス等での助言や指示を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が数名おり、また隣接する同法人の看護師、同法人の訪問看護ステーションの看護師の協力を得て、入居者のリハビリや健康管理に努めている。		

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合には入居者が安心して過ごせるようこまめに訪問したり、情報交換を行っている。また入院される際、看護サマリー等で本人の普段の状況や特徴等を病院側に伝えている。早期に退院できるよう医療機関と綿密に話し合い退院計画を立てている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取り支援の指針をもち、職員、家族、主治医の共通理解を働きかけている。また契約時点で重度化や終末期についての家族と本人の希望を聞いており、状況に応じて、家族、職員、主治医と繰り返し話し合い、確認書を交わしながら本人らしい終末期の迎え方について全員が方針を共有化している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ち、家族の気持ちを最大限尊重した上でふぁみりえでは何がどこまで出来るかを家族やかかりつけ医等と共に話し合い、支援に取り組んでいる。看取り支援確認書を家族、主治医、職員間で交わす際に対応可能なこと、また限界があることについて充分話し合っている。主治医や看護師からのアドバイスをもらいながらスキルアップを図り職員の不安を軽減できるよう心掛けている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まずは本人やご家族との話し合い、体験利用や通いや泊りを一定期間利用して頂き、徐々になじみの関係の構築を図っている。移住の際には情報収集をふぁみりえ独自のアセスメントシートやセンター方式のシートを使って行ったり、他のグループホームへの移動の際も情報を提供や、移動後も継続した支援を行い、ダメージを防ぐ事に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳や願いを最大限に尊重し、入居者の人格や誇りを傷つけないような接し方、言葉遣い、態度、配慮を心がけているが、状況に応じては日々記録に個人名を使用している場合もまれにあり、記録の書き方に配慮しなければならない部分もある。		ふぁみりえの理念や方針の理解を深め、全職員がプライバシーの確保についての再確認をする必要がある。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	午前中にホールで入居者と今日の予定などを話し合うなどをして、日々の暮らしの場面で入居者の自己意思の確認、できるだけ自己意思を引き出すような支援を行っている。また、運営推進会議でも本人の思いや希望を表す機会を作り支援を行っている。		今日は何がしたいかなどを聞き取り、反映させていきたいが、遠慮もあるのか本人から自己意思を引き出すのは難しく、今後工夫していきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活においても、また外出や行事への参加、アクティビティの際も、入居者のペースを最優先で考え、本人の希望を確認している。またその事により入居者がストレスに感じないよう配慮し、対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に洗顔や、ブラシを渡し髪を整えるよう促したり、正月や外出時やその時々によって化粧の支援をしたりと個々の入居者の好みや希望に応じながら個性を大事にしたおしゃれの支援を行っている。また、訪問理容を活用したり、入居者の要望により理髪店に外出したりなど支援している。		常に身だしなみが出来ているか、その人らしい服装やおしゃれであるかという基本ケアの見直しを図っていく。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事作りや片付けなど、入居者の残存能力を活かして頂いている。また個々の入居者に応じてお粥、きざみ食、とろみをつけるなど調理方法を工夫したり、量を調整するなどして提供し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しく食事が出来るよう支援を行っている。		週に一回、広告などをみて入居者の方々がその日に食べたいものを買物に出かけ、調理し食べて頂くよう取り組んでいるが、それに関わる入居者が限られている。個々の利用者への働きかけを行い、より楽しみや力の発揮の場となるよう努力したい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人一人におやつや飲み物を選んでもらったりなど好みに応じて支援を行っている。お酒を嗜まれる方については花見や家族会などの行事の際に希望に応じて楽しめる支援をしている。現在タバコを吸われる入居者はおられないが、火の管理は防災マニュアルを作成し対応している。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに応じた声かけをしたりトイレ誘導を行い、できるだけオムツをしなくても良いように心掛けている。オムツを使用する際にも種類、使用頻度を検討して漫然とオムツになるのを避けるようにしている。また失禁時は入居者のプライバシーや自信喪失にならないような声掛けにも配慮し、速やかに対応している。		

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には何時でも入浴は可能であり、入居者の希望や、習慣、好みに応じた個別の入浴支援を行っている。その際は事前にバイタル測定を行って体調の確認をし、変化がある場合には看護師に相談、指示を仰いだりして入浴可否の見極めをしている。また、入浴時の声掛けにも十分に配慮している。		状況に応じて入浴が出来ない入居者には入浴に変わるもの(清拭や足浴)を行ったり、入浴の拒否が強い入居者については、自ら気持ち良く入浴したくなるような声掛けの工夫や、支援を模索していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者が夜間眠れない場合は、温かい飲み物を提供したり、日中の過ごし方を考えながら支援している。日中の外出等で疲労が見られる場合も状態に応じて早めに休息できるように支援している。居室で休まれる際には明りや室温などに配慮した支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や好み、習慣などを把握し、地域の行事、小中学校との交流などを通して、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。また、昔馴染みの知人を訪問したり、料理や裁縫、囲碁、マージャン、書道、花道など生活の楽しみや出番作り、気晴らしが出来るよう支援をしている。職員で対応が難しい時には地域の方々の協力を得て		入居者が今まで趣味や特技でされていた事を主にアクティビティや出番、役割作りとして行っている。さらに地域や馴染みの方の協力を得ながら、力の発揮できる場を増やしていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行によりお金を自分で管理する事が難しいため、ご家族より預かり金を預り、いつでも好きな時に欲しい物を購入し、支払い時には本人に支払っていただけるよう支援している。		本人が買い物をする際はできる限り支払いをしていただき、本人の自信や安心につながるよう見守りを行っている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて自宅やなじみの地域に出掛けしている。また夕食の買い物や近くの公園への散歩、地域の行事やイベント、近くの小中学校の交流イベントや発表会へ行ったり、知人を訪問したりしている。		希望にそっての外出は、特に急なものには対応できていないこともあり、今後どう対応していくか検討していく。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者やご家族の希望を聞き取り、連絡調整を行いながら、家族行事や冠婚葬祭、旅行、外食など出来るだけ家族も一緒に出かけられる機会作り、支援をしている。		

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者は居室内に使い慣れた電話を引いており、いつでも好きな時に家族とのやりとりが出来るようにしている。年賀状や手紙で家族や知人へ思いを伝える支援をしている。また職員が家族へ書類を送るときに本人にも手紙を一筆書いてもらったりしている。		声掛けを行っても、文字を書きたくなかったり、何を書いたら良いか分からないことがある為、日頃から文字を書く習慣をつけながらいつでも手紙をかけるよう支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっておらず、家族、友人、知人など、いつでも来て頂いている。家族にもアドバイスを頂き、居心地良い環境作りを行っている。時には泊ったり、一緒に食事をしたりできるよう、支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で研修を行うなどをして身体拘束をしないケアを実践している。また、ケースカンファレンスや困難なケースを検討する際も身体拘束をしないケアについて十分話し合いながら取り組んでいる。		言葉による抑制などに関してはまったく無いとはいえず、職員間の日々の話し合いのもとそれらも抑制につながる事を再認識し、常に念頭に置きながら言葉を掛けていきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も窓も鍵をかけていない。玄関は鈴の音やドアの開く音に職員は注意を払い、所在確認に努めながら、入居者には自由に出入りしてもらっている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内などの見えないところであっても、入居者の行動を察知をしたり、定期的に居室を訪室し様子を確認しながら所在確認、安全確認を行っている。その際には入居者のプライバシーに配慮している。		所在確認には職員同士の声掛けを常に行い、所在不明や事故が起こらないよう気をつけながらも、さらに入居者のプライバシーにも充分に配慮していきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な包丁、洗剤等はマニュアルにしたがって管理、利用しており、夜間は所定の場所に保管している。各居室内においては洗剤などいつでも利用できるように入居者に応じて設置したまま様子観察を行っている。状況の変化によっては家族と相談したりケアカンファを行いながら危険を防ぐ取り組みをしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルを作成しており、必要時に対応できるよう勉強会の開催や看護師から随時アドバイスをもらっている。また、月に1回の防災点検、年に1回の防災訓練を行い、緊急時に職員が速やかに対応できるよう取り組んでいる。事故防止についてはヒヤリハットや事故報告書を活用し、再発防止に努めている。		定期的に勉強する機会や各個人でも日々シミュレーションを繰り返し、常に危険性があるという事を念頭に置き、事故防止に努める。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを作成しており、定期的に勉強会などで応急手当や救急蘇生、AEDの使用法などを学び発生時に備えている。必要に応じてミーティングなどでスタッフ間に注意を喚起したり、ケアカンファを行い、万が一の場合の対策について事前に示したりしている。		定期的に学習する機会を設けているが、すべての職員が落ち着いて対応できない場合も考えられるため、今後これらを学べる機会を増やしてように急変や事故発生時に備えておく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、夜間の地震や火災を想定した防災訓練を行ったり、防災の日(毎月15日)にイメージ訓練をしながら入居者が安全に避難できる方法を訓練している。また、災害時に家族や運営推進委員、地域の方に協力を得られるよう訓練にも一緒に参加してもらい、アドバイスをもらっている。		毎月15日を防災の日と定め、ミーティングの時に防災の事を話し合うなど、常に防災への意識付けをスタッフに徹底している。家族や運営推進委員から頂いたアドバイスや反省を基に改善に努めている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員も共通認識を持ち、家族にも十分説明を行って本人が安心して生活できるよう心掛けている。認知症の進行により変化があった場合には起こりうる可能性について、家族と相談したり、ケアカンファをし、必要に応じてケアプランに示している。		入居者個々のわずかなリスクの変化にも気づき対応できるよう、常にスタッフ間で話し合い、共通認識を持って対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひとり一人の体調に応じて定期的なバイタル測定を行い、少しでも入居者の普段と違うと感じた場合、他スタッフや看護職員に報告し、必要に応じて主治医へ報告相談するなど早目の対応にあたっている。		僅かな体調の変化や異変の発見については日頃の状態を十分に把握しておく必要があるため、日頃から継続的な様子観察を行う。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬について確認できるように薬情報をファイリングしており、また新しく処方された薬、臨時薬などはナースと職員の連絡ノートに記載し、各職員が目的や副作用などを確認している。しかしながら特に定期薬は全ての薬を職員が認識理解しているとはいえない。		職員一人一人が各入居者の定期薬の事について再確認する。特に新しく処方された薬は目的や副作用等について学習し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めていく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者には薬や飲食物、運動など本人に合わせて調整を行っているが、自立している入居者の便秘時には対応が遅れる事がある。また薬の使用を抑えるため、野菜ジュースやヨーグルトの提供など日々工夫に取り組んでいる。		食事や日頃の運動にて便秘になりにくい働きかけを促すとともに、自立している入居者の排泄確認方法を模索し、行っていきたい。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の力や習慣に応じて歯磨きや入れ歯洗浄、うがいなどを行っている。中には口腔ケアの拒否が強く、充分には対応できていない入居者もおられるため、その日の体調や様子を見ながら支援を行うとともにスタッフ間の情報も共有していく。		入居者の習慣、気持ちを大切にしつつも、口腔ケアの必要性を説明し、職員間の情報を共有して口腔ケアを行っていききたい。また、歯科による定期的な往診も取り組んでいる。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成しており、食事・水分の1日の摂取量を書き込み保存する事で把握している。栄養バランスや水分に気をつけるとともに、必要に応じて食事形態を考え、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		栄養面においては栄養士によるチェックや嚥下などの勉強会を行っている。今後も定期的に見て頂けるようお願いしていきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルもあり、流行時は即座に感染対策委員会より対応策を出していただき、予防方法に従って行っている。また、手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努めている。また感染の可能性のある職員やその家族の感染についても速やかに報告し対応している。		職員自らが感染源にならないよう常に予防に心掛ける。マニュアルにそった予防対策の必要性を重視し、職員一人一人の感染症に対する知識の習得に努めたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルにしたがって、食中毒の発生予防に努めている。食材の点検には注意を払い、食中毒の流行する時期に関わらず普段から調理用具の消毒や食品の管理を徹底している。		毎日夜間に、まな板や台所用品の消毒を行っている。また毎日使用する食材の点検も細かくチェックしている。これからも食中毒予防について職員は常に学習し、発生防止に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関近くの花壇に花を植えたり、綺麗な表札、インターフォンの利用しやすさ等で出入りしやすい雰囲気や、玄関には入居者が生けられたはなをいつも飾って家庭的な雰囲気作りに努めている。		畑や庭の花をはじめとした季節の花などを利用し、家庭的で季節感に満ちた玄関作りを工夫していきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には家庭的な家具や調度品を置いたり、入居者の絵画や入居者の生けた花や書道、写真、また、季節感のあるものを取り入れ、できるだけ居心地良く過ごせるよう努めている。しかし浴室やトイレには生活感や季節感が少ないため、心地よく使用して頂けるように工夫に取り組んでいる。		書道やお花などの作品、また季節感を出すために飾っていたものがいつまでも飾りっぱなし、置きっ放しに成らないように定期的に更新していく。

グループホーム ふぁみりえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や台所、和室、リビング中央のソファスペースなどにて個々の入居者の状態や環境に配慮しながら、居場所作りを工夫している。		しかし、まだまだ工夫できていない部分も多く、入居者同士の関係作りやその日の体調などを配慮しながら、より良い居場所作りに努めていく。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に訪問させていただき、本人や家族と話し合いながら、居室に昔から使い慣れた家具や仏壇、電話や冷蔵庫を持ち込んで頂いている。旅行のお土産で買った思い出の品、写真(アルバム、入居後に写した写真)など人生史や生活習慣を大切にしたいその人らしい居室作りを行っている。		居室作りが不十分な部屋もあり、今後、家族と相談しながらなじみの家具や本人の誇りにつながる思い出のものなどを増やしていき、本人が居室で居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やホールの臭いなどが気になる時には原因を探り、消臭に努めるとともに換気等をこまめに行ったりして対応している。また、温度調節も入居者の状態に合わせて適宜行っている。		ホールの換気時には、入居者の体調や気温の変化にも考慮し、入居者が不快にならないよう対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差、浴槽、便座、手洗いの高さ、食卓テーブルと椅子など主治医や専門医と相談しながら、入居者の身体機能に応じて設備を整えている。		入居者の身体能力に衰えも見られるため、テーブルの配置や重度化の方にも対応できるイスなども視野に入れ検討していく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示、その位置など、入居者の場所の間違いや失敗がないよう家族とも相談しながら工夫している。必要に応じて鏡には掛け物を掛けたりしている。		入居者の身体レベルの低下やその時々状況によって混乱や失敗の原因になるものがあれば、その都度ケアカンファを行い情報を共有しながら解決方法を検討していきたい。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで洗濯物を干したりする他、家族や地域の方とバーベキューを行ったり、天気がいい日はお茶や食事、日向ぼっこなどで活用している。中庭には花壇や畑を作り、野菜の収穫や花見などをして活用している。		各居室の小さい庭に関しては入居者と話し合いをし、今後花壇を作るなど利用していきたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム ふぁみりえ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)